

1.手入れと保存

下記の手入れは、エンジンを常識的な条件で正しく使用した場合に必要な手入れの標準を表したものです。従ってこの時間までは、手入れは必要ないというような保障の意味は一切ありません。例えば埃の多い所で使用される場合は、エアークリーナの清掃は時間毎ではなくて毎日になることもあります。

1-1 毎日の手入れ(8時間毎)

点検と手入れ	手入れの必要な理由
(1)各部の埃の清掃。 (2)燃料漏れの有無を調べ、もしあれば増締めするか交換する。 (3)各部の締付にゆるみがないかを調べ、あれば増締めする。 (4)クランクケース内オイルを点検し不足している時は補給する。 (5)エアークリーナエレメントの汚れ具合を点検し、清掃又は交換する。	(1)特にガバナ連結部に埃がついていて作動が悪くなる事があります。 (2)不経済であるばかりではなく危険です。 (3)締付け部のゆるみは振動事故の原因になります。 (4)オイル不足で運転すると焼付き事故等を起こします。 (5)汚れたままですと出力不足、運転不調を起こします。

1-2 20時間目の点検と手入れ

点検と手入れ	手入れの必要な理由
(1)クランクケース内のオイルを交換する。	(1)初期なじみの汚れを除去するため。

1-3 100時間毎(10日毎の手入れと点検)

点検と手入れ	手入れの必要な理由
(1)クランクケース内のオイル交換。 (2)エアークリーナの清掃。 (3)点火プラグの点検、汚れている時はガソリンでよく洗浄するか紙ヤスリ等で研ぎます。	(1)汚れたオイルは摩耗を早めます。 (2)エンジンが不調になります。 (3)出力が低下し、始動不良の原因になります。

1-4 100～200時間毎(毎月の点検と手入れ)

点検と手入れ	手入れの必要な理由
(1)燃料ストレーナ及び燃料タンクの清掃。 (2)エアークリーナエレメントの交換。	(1)エンジンが不調になります。 (2)エンジンが不調になります。

1-5 300時間毎の点検と手入れ

点検と手入れ	手入れの必要な理由
(1)吸排気弁隙間点検と調整	(1)出力が低下、エンジン不調になります。

1-6 500～600時間毎(半年毎)の点検と手入れ

点検と手入れ	手入れの必要な理由
(1)シリンダーヘッドを取り外し、カーボンを落とします。 (2)キャブレター(気化器)の分解、洗浄。	(1)エンジンが不調になります。 (2)エンジンが不調になります。

1-7 1000時間毎(一年間)の手入れ

点検と手入れ	手入れの必要な理由
(1)オーバーホールを行い清掃、修正、交換を行います。 (2)ピストンリングを交換します。 (3)燃料パイプを交換します。	(1)出力が低下し、エンジンが不調になります。 (2)出力が低下し、エンジンが不調になります。 (3)燃料が漏れると危険です。

1-8 長期間にわたりエンジンを使用しない時

- (1)前記1-1の手入れを行います。
- (2)燃料タンク内の燃料、及びキャブレター(気化器)フロートチャンバー内の燃料を抜きます。
- (3)シリンダー内面の防錆のため、点火プラグ取り付けネジ穴よりオイルを注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに2～3回引き点火プラグを取り付けます。
- (4)リコイルスタータの始動ノブを引いて重くなった位置で止めておきます。
- (5)外部は油で湿した布で清掃します。ビニール等のカバーをかけて湿気の少ない場所に保管してください。